



# 県環保衛連



県連HP

第24号

発行日 令和4年10月15日  
 発行者 富山県環境保健衛生連合会 会長 五十嵐 務

題字 五十嵐 務

## 第65回 富山県環境保健衛生連合会定期総会



### 第六十五回定期総会が開催される

コロナのため三年ぶりの開催となった第六十五回定期総会は、令和四年五月十八日(水)午後一時半からサンフォルテホールで開催された。

松丘副会長の開会宣言のあと、五十嵐会長からの挨拶があり、次いで富山県知事(代読・木内哲平厚生部長)から祝辞があった。

来賓紹介のあと、県の施策についての講話があった。最初に県厚生部健康課長・久崎みのり氏より「健康寿命日本一を目標として」

指して「富山県における健康課題と健康増進施策」と題して講話があり続いて県生活環境文化部参事環境政策課長・中島浩薫氏より「富山県の環境施策について」と題して講話があった。(別掲)

定足数の確認後議事に入り、令和三年度の事業報告・収支決算報告について、続いて令和四年度の事業計画(案)・収支予算(案)について原案通り承認された。

次に、第六十七回富山県環境保健衛生大会を高岡市で開催することが決定された。また、令和四年度の役員が承認された後、麦島副会長から閉会の挨拶があり全て終了した。

### 第六十五回 定期総会 会長挨拶

今年度の事業計画では、新規事業として県東部環境巡視員等研修会でごみ拾いをスポーツとして行う「スポG.O.M.I」を体験研修することとしました。

また、県内六地区で行っております「三代環境・保健衛生活動モデル事業」は、コロナのため、開催を見合わせている地区もありますが、五年目を迎えます。

重点事業の「美しい富山湾の保全活動の推進」として昨年より国立立山青少年自然の家との共催で始まりました小学校五・六年生を対象とした「環境学習会」の事業や、三世代のモデル事業も、SDGs

の視点から、私たちの活動が将来においても持続されていくためには、若い世代からの環境保健衛生活動に参加してもらうことが大切であると考え、実施しております。全県で取り組んでおります「みんなできれいにせまいけ大作戦」にも若い世代の参加を一層進めることも大切だと感じております。

健康面の取組みでは、「人生百年時代に向けて」、「要介護(フレイル)予防」の推進を引き続き取り組みたいと思っております。その一環として、富山県の健康課題である野菜の摂取量と減塩について配慮した食事「健食」についての研修会も行う予定です。また、昨年より始めました「出前健康講座」は、県連合会の健康部会の内容を希望市町村に出向いて行うもので、高齢者に適した運動「八段錦(はちだんきん)」の研修ができます。是非、開催を検討していただければと思います。

このような取組みを県民一人一人が会員となっており、我々の連合会が組織をあげて取り組んでいくことによって、日本一の環境先端県、健康寿命日本一を目指そうとできるのではないかと思います。

どうか皆様方のご協力を得て、我々の住んでいる大事なふるさと富山が、そして県民一人一人が本当に元気で暮らせる、健康で暮らせる県を目指しております。

# 健康寿命日本一を目指して 富山県における健康課題と 健康増進施策



富山県厚生部健康対策室健康課長  
久崎 みのり氏

## ○富山県の健康寿命の状況

健康寿命とは、「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」を言います。富山県の健康寿命は3年に一度の調査では延びていますが、一方で平均寿命との間に男性で約9年、女性で約12年の差があり、平均寿命だけでなく健康寿命を延ばすことが大切です。

## ○健康に関する富山県民の状況

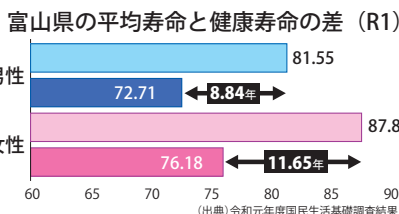
令和2年厚生労働省の人口動態統計によれば、富山県民の死因の48・6%が、がんや心疾患、脳血管疾患などの生活習慣病で亡くなっています。特定検診のデータによれば富山県民はメタボリックシンドロームに該当する割合が全国的に高いことがわかっており、県では「野菜摂取量の増加」「減塩」「身体活動の増加」の観点で生活習慣を見直すように呼びかけています。

## ○県の取組状況

平成28年の県民栄養健康調査では、「野菜摂取量」や「1日当たりの歩数」、「メタボ該当者の割合」で数値が悪化し、「食塩摂取量」についても目標を達成していません。特に働き盛り世代の数値が良くない指標もあります。そのため、県は次の観点で施策を展開しています。

- 1 望ましい生活習慣の確立のための食生活の改善や運動習慣の定着による生活習慣病の予防

①働き盛りの健康づくり支援事業(健康ポイント) スマートフォンアプリ「元氣とやまかがやきウォーク」を活用し、健康ポイント事業を実施



②野菜をもう一皿！食べようキャンペーンと減塩セミナーの開催

野菜充足度がわかるICT機器を活用しスーパー店頭で1日350gの野菜摂取を啓発するキャンペーンや減塩セミナーを実施

③ぐつすりとかまプロジェクト

睡眠満足度が全国最下位である状況を改善するため、睡眠の重要性を啓発する「ぐつすりとかまシンポジウム」の開催やチーム対抗の「チャレンジキャンペーン」の開催

## 2 若者や高齢者の栄養課題への取組み

①つながる健康プロジェクト

健康を次の世代につなげることをコンセプトに、働き盛り世代や学生がそれぞれ健康づくりに取り組み、子ども食堂への野菜の寄付につなげるプロジェクトの実施

②たんばく質摂取促進キャンペーン

高齢期のたんばく質摂取の大切さを啓発するキャンペーンを実施

③フレイル予防に向けた食生活改善に関する講習会の開催

## ○まとめ

生活習慣病やメタボリックシンドロームは生活の質を低下させ、医療費の増大を招き、働く世代の負担増にもつながるため、社会全体の課題として健康づくりに取り組む必要があります。

生活習慣病を予防するためには、運動習慣の定着、減塩や野菜摂取などの食生活の改善、十分な睡眠による休息、歯・口腔の健康など基本的な生活習慣の改善が大切です。そのため、県では、家庭、学校、職場、地域などが一体となって健康づくりを実践できる環境づくりに取り組んでまいります。



# 富山県の環境施策について



富山県生活環境文化部参事環境政策課長  
中島 浩薫氏

県では、今年3月に「富山県環境基本計画」を改定し、新たな目標である「水と緑に恵まれた環境が保全・創造され、人と自然が共生しながら、持続可能でウェルビーイング(真の幸せ)が向上した社会」を目指して取り組んでいます。このうち、今年度の主な取組みをご紹介します。

## 【環境美化の推進】

近年、海洋ごみ問題が世界的にも注目されています。

県内のすべての海岸で海岸漂着物が確認されており、その約8割が県内河川を通じて海に流出したものとされています。海岸漂着物を減らすためには、海岸での清掃活動だけでなく、街なかなど内陸部での清掃活動や、そもそも散乱ごみを発生させないことが重要です。

県では、毎年6月から9月にかけて、市町村と連携して、上流から下流まで県内全域での清掃活動キャンペーン「みんなできれいにせんまいけ大作戦」を展開しており、7月に高岡市松太枝浜で海岸特別清掃を開催し、県民約千名のご参加のもと、約10トンのごみを回収しました。連合会の皆様にも、各地での清掃活動にご協力をいただき、ありがとうございます。

また、昨年度から、清掃活動にスポーツを掛け合わせ、競技としての楽しさを加えた「スポGOMI」の



海岸特別清掃(7月3日高岡市松太枝浜)

普及に取り組んでおり、今年度は連合会の研修において「スポGOMI」を実施され、県から支援させていただいたところです。

【ボランティアによる清掃活動の促進】

また、県では、幅広い県民に清掃活動に取り組んでもらえるよう、今年7月に、企業やグループ、ボランティア団体等をメンバーとする「とやま海ごみボランティア部」を設立しました。



とやま海ごみボランティア部ロゴ

これは、各メンバーが県内の海岸、街なか、ご近所での日常的な清掃活動や、身近な人に海洋ごみ問題についての理解を広める活動を行うものです。

7月には設立記念活動として、海岸特別清掃において、初めての清掃活動に取り組んだほか、メンバーを対象とした学習会を、8月から順次開催しており、今年度はあと2回開催する予定です。

また、県では、上流に位置する岐阜県と連携して海岸漂着物対策を進めることとしており、両県で同じ日に実施する清掃活動として、メンバーによる清掃活動を予定しています。

現在、広く入部を呼び掛けており、入部を検討していただければ幸いです。

【お問い合わせ】

県では今後も、地域資源を活用したカーボンニュートラルの実現、エコライフの実践拡大と快適で恵み豊かな環境の実現、環境資源を活かした持続可能な地域の実現に向けて、各種の施策に取り組みしていくこととしていきますので、引き続き、皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いたします。

令和四年度 環境巡視員等研修会(県東部)

日時 令和四年六月三十日(木) 午後一時～三時

場所 富山市岩瀬浜海岸

参加者 五十五名

講師 一般社団法人

ソーシャルスポーツイニシアチブ 小西 和孝氏

内容 ごみ拾いをスポーツとして行う「スポGOMI

体験」と「マイクロプラスチック回収の紹介」

五十嵐県連会長の挨拶の後、講師の小西先生がルー

ル説明し、尾田県連副会長が選手宣誓を行い、参加者

全員で「ごみ拾いはスポーツだ」と発声し、競技がスタートした。

猛暑の中、一チーム四人から五人の十一チームが参加して実施。熱中症対策として、水分

補給のペットボトル、塩分補給の飴

首に巻く保冷剤入りのタオルなどを

配付し、ごみ拾いの時間も予定の一

時間から三十分短縮して行われた。

優勝 滑川チーム 次勝 富山市

Dチーム 三位 魚津市Aチーム

この後、マイクロプラスチック回

収体験の説明、浦出専務理事の閉会

の挨拶で終了した。

まとめ

子供から大人まで誰でも気軽に楽し

しめ、自然と環境美化意識が根付く

ことから、恒例行事とし、各地区でも

取組んでもらえるようになればと思

っています。

※「スポGOMI」とはごみ拾いをスポーツと

して行うもので、チーム制で、制限時間

を設け、分別してごみを拾い、種類ご

とに重さを量り、決められたポイントを付

け、ポイントの多いチームが二位になるゲ

ーム感覚のスポーツである。



令和四年度第二回健康専門部会研修会

：「健康」調理実習・研修会開催報告

日時 令和四年八月二十九日(月) 十時～十三時半

場所 日本海ガスルーム Pre-go

参加者 十六名 富山市黒崎四〇五の六

研修会テーマ

「県の健康寿命の延伸の課題である減塩と野菜の摂取量に関してその改善を目指す『健康』について研修し、メニューの開発と普及を図る」

講師 富山県食生活改善推進連絡協議会

会長 勝田 幸子氏

講話 「減塩と野菜をもう一皿で健康寿命の延伸を」

調理実習

① おいしい減塩調理

② 野菜を多く取る食事 慣れない手つきで、包丁を持ち

食材を切りました。

③ 実食 ④ 片付け・まとめ

研修会で学んだこと

毎日、奥さんに作ってもらった料理を

食べて感謝していましたが、今回は、自分達が料理人にな

った気持ちになって、五種類の料理を作りました。

何を先から料理をするのか、マニュアルに書かれていま

すが、いざ実践になると手順が分からず手間取りました。

又、味付けの調味料の分量も

適当になり苦労しっぱなし。

まとめ

実食した感想では、食材の旨

みや感触もいまいちでした。毎

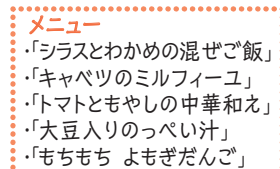
日、奥さんが作ってくれた料理

を感謝しつつ、自分達でも料理

が出来る男性になって、奥さん

に食べさせて喜んでもらいた

いですね。



## 第二回 青少年環境学習会

国立立山青少年自然の家の協力を得、重点事項の「富山湾の環境保全」の取組みの一環として、次のねらいで実施した。

「海岸漂着ごみ、海洋ごみについて体験を通して学習することで、海洋ごみ問題について知識を広め、また、海の豊かさや恵みを体感する活動を通して、一層、次の世代に美しい富山湾を引き継ぐ活動に寄与する意欲や態度の向上を図る。」

期日 令和四年九月三日(土)～四日(日)一泊二日  
参加者 小学校五・六年生 十四名  
共催 国立立山青少年自然の家

### 【一日目】

- ① 開講式 岩瀬浜海岸
- ② 岩瀬浜でごみ拾いボランティア、マイクロプラスチック回収体験、流木・プラごみクラフト用の材料集め
- ③ 早月川河口、魚津漁港近くの漂着ごみ視察
- ④ 魚釣り体験(黒部市石田浜)
- ⑤ 漂着ごみ(流木&プラごみ)でクラフト

### 【二日目】

- ① 水遊び(常願寺川 富山市小見地区)
- ② まとめの時間



マイクロプラスチック調査



ごみ拾いボランティア



魚釣り体験



網場の視察



まとめの時間



漂着ゴミでクラフト

### 【活動を終えての感想】

海や川等のごみは、プラスチック、発泡スチロールがほとんどだった。プラスチックは、マイクロプラスチックになると人にも被害がでることが分かった。

今後日本の海のために、海のごみ拾いをします。そのためには、プラスチックごみなどを捨てない。海にごみがあるのは、自分たちのせいなので、一人一人がポイ捨てに気をつけるといいと思った。海での清掃に積極的に参加します。

一つの海が汚れると他の海も汚れること、世界中が汚れることが分かった。自分に何ができるか考えねばならない。

海岸のごみを減らすために、ゴミ袋を持って海に行ったり、今回のような活動に参加します。

ぼくは、今後ボランティアのごみ拾いに参加してみたいです。



## 令和四年度役員

【会長】	五十嵐 務	(富山地区富山市)
【副会長】	麦島 紀長	(富山地区富山市)
〃	林 信義	(高岡地区高岡市)
〃	尾田 喜則	(県東部地区A入善町)
〃	吉田 裕造	(県東部地区B滑川市)
〃	田中 賢次	(県西部地区A氷見市)
〃	浦出 義一	(県西部地区B南砺市)
【専務理事】	浦出 義一	(副会長兼務)
【監事】新	杉本 一雄	(富山地区富山市)
〃	浅生 修	(県東部地区魚津市)
〃	白沢 富治	(県西部地区小矢部市)
【常任理事】	白江 祐一	(富山市)
〃	長澤 邦男	(富山市)
〃	山森 潔	(富山市)
〃	村上 公生	(富山市)
〃	水口 広信	(富山市)
〃	田中 昌明	(富山市)
〃	駒井 義次	(高岡市)
〃	蔵 伊佐夫	(高岡市)

## 編集後記

第24号をお読みいただき有難うございます。このような編集を初めてさせていただき、つたない部分もありましたが、力を合わせて作りました。

過去の編集後記にもたくさんあるとおり、新型コロナウイルスの影響を及ぼしており、私が主体となって実施していた富山市の東部ふれあいフェスタもここ数年は開催できず寂しい思いをしています。しかし、ワクチン接種や検査の迅速化等の技術の進歩や、マスク着用や手指の消毒等の人々の生活習慣の変化により、この編集をとおして、色々な活動が再開されるのを見て、少しずつコロナ前の生活が戻ってきていると実感しています。

色々な活動が一度途絶えながら、コロナ前の保健衛生活動の再開は、人々の中に保健衛生活動の重要性が浸透している証拠であり、より良い環境と思想を次の世代へと受け継ぐために非常に重要です。この会報で再開されている様々な活動をお伝えすることで、活動再開への一助となれば幸いです。(村上 記)

【常任理事】	加納 昌之	(高岡市)
〃	米陀 峰信	(黒部市)
〃	中易 厚司	(入善町)
〃	澀川 悦郎	(朝日町)
〃	長勢 静雄	(魚津市)
〃	吉田 均	(滑川市)
〃	鍋谷 正成	(上市町)
〃	新	
〃	新	
〃	新	
〃	新	
〃	新	
〃	新	
〃	南 昭仁	(小矢部市)
〃	大塚 千代	(南砺市)
〃	中島 勇	(砺波市)
〃	放生 寛治	(氷見市)
〃	林原 克巳	(射水市)
〃	串田 伸男	(射水市)
〃	萩原 勉	(舟橋村)
〃	広嶋 寿雄	(立山町)